

## 産直講座「水俣不知火ネットワーク編」～有機青果を知ろう！～

(2021年10月1日開催)

### 質問と回答

\*以下は、アンケートで上がってきた質問に対しての回答になります。

質問①：有機は、素晴らしい部分がたくさんある中で、どうして有機農家は少ないのか？有機を続ける大変さは、何かを教えてください。

回答①：・有機栽培の技術が確立されていない。 } 生産性が低い、収入が安定しない  
・指導者がいない。  
・病害虫対策  
・雑草対策

質問②：除草作業がとても大変だということでしたが、生産者の高齢化などでスピードや行うことができる量にも難しさがあるかと思いますが、そうした困難を乗り越えていくための工夫や取り組みを教えてください。

回答②：除草対策では、防草シート、マルチ（草刈り機等の動力を使用できない場所）を使っています。

質問③：有機農業に取り組むうえで周囲の人たちから苦情や嫌がらせもあるとのことでしたがそうした周囲の方々と上手く関係を築いていくためにどんな工夫をしているのかを教えてください。

回答③：・早めの対策を実施する。  
・上手く関係を築くためには、生産、販売を共有すること。販売先の確保が必要です。

質問④：有機の美味しさや良さを私自身は感じながらも周囲には「高いよね。」「お金のある人たちのもののイメージだね」などと言われることもあります。そうした方々に有機農業の良さを伝えていきたいと思いますが、どのように伝えていけるか、何かお考えがあれば教えてください。

回答④：有機は美味しいけど高い。生産者にとっては生産性が低い。だから広がらない。  
有機栽培＝生産現場、自然環境（農地、川、海、生態系）を守り次世代へ残す役割を担っていると考えます。

質問⑤：有機農業に関心を抱きながらも、現状では有機のものを購入することや時折農家にお手伝いに行くことくらいしかできていない自分がいます。皆様が消費者の方に望んでいることや、関心を抱いている人々に望む行動などありましたら教えてください。

回答⑤：有機生産者の増加＝国土の自然を守ること。

質問⑥：有機農業を広めるために、新しい就農者を受け入れて、ノウハウ等全てを教えるというお話がありましたが、澤村さんの地域に就農する方のみなのか、別の場所に就農を目指す人も受け入れていくのか教えてください。

回答⑥：有機を志す方には就農場所は問いません。取り組みたい方には、すべてを伝えたいと思います。